

球磨工業高校 教務だより 8月号

「知の探索」



令和3年(2021年)8月30日発行

夏休みから2学期へと時間は過ぎていきます。まだ夏休み終わらないでほしいと願う人もいるでしょう。その一方で、ほとんど全ての人が早くコロナ禍が収束してほしいと願っているでしょう。私たちにできることを地道に続けて、感染症に負けないようにしたいですね。

今月は2ヵ月にわたって、「知の深化と探索」というテーマで、皆さんの学習をとらえ直しています。知の探索とは、これまでの学習領域や方法に囚われず、未知の領域に対する知的探究することに主眼を置いた考えです。新しいアイデアは、いつもと違った視点から考えたり、全く異なる分野の考えを応用したりすることで生まれます。斬新な建築物のアイデアを考えたいときに、建築のことばかり調べていても、なかなかアイデアは生まれません。建築とは全く違う分野の勉強をしたり、これまでやったこともないような方法で建築を捉えなおしたりすることで、新たな気づきに出会い、自分の考えが一気に拡張されるのです。

トヨタ自動車が入力したジャスト・イン・タイム生産方式では、「必要なものを、必要な時に、必要なだけ生産する」という方式のため、作業効率を向上することと業務の無駄を省くことが最大のメリットです。その反面、やり方を間違えてしまえば生産がストップするリスクもあります。

トヨタ独自の生産管理方法「かんばん方式」は、スーパーマーケットを参考に考案されたそうです。スーパーマーケットは、多くの商品が一定の数、棚に陳列され、利用者は自分が必要な分だけ棚から取って購入します。店側は、棚からなくなった分だけ商品を補充します。この流れが、自動車を作る流れの何に関係しているかわかりますか？

自動車を作るには、部品を作る部門（前工程）と、部品を組み立てるライン（後工程）の両方が必要です。部品を作るときには、一気に大量な部品を作った方が1個当たりのコストを抑えられますが、不必要な数を作ると多くの在庫を生み、無駄が多くなってしまいます。そこで、部品を組み立てるライン（後工程）で使った分だけ、部品を作る部門（前工程）が新たな部品を作るようにしたのです。利用者が買った分だけ、店が棚に商品を補充するのと同じ考えです。

このように、全く違う分野のアイデアを転用することで、トヨタは独自の生産方式を磨き上げました。斬新なアイデアは、センスのある天才が生み出すものではなく、知の探索をして思ってもない分野のアイデアを応用した人によって、生み落とされるのです。ちなみに、スーパーマーケットで同じ人が大量に同じ商品を購入すると、棚に商品がなくなり困ったこととなります。これを解決する方法もトヨタは考えていますので、皆さんも調べてみてくださいね。

9月 2021.September 令和3年・長月			木/thu	金/fri	土/sat	日/sun
			26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5
		始業式、(服) まとめテスト				
6 (検)	7	8	9	10	11	12
		特別授業 2AA・3AA	SC (予定)	第34回基礎製図検定		
13 (検)	14 (短) 朝読なし	15	16	17	18	19
	キャリバス【体育大会】		就職試験開始 SC (予定)			
20	21	22	23	24	25	26
敬老の日	(運)	SC (予定)	秋分の日			
27	28	29	30	1	2	3
SC (予定)	午前：月曜④⑤⑥	午前：水曜④⑤⑥		終業式 (専攻科)	専攻科前期入試	
専攻科定期考査～30日					【全校生徒立入禁止】	

君たちの発想、いつも感心。楽しみ。

美術科 高木 弥生

夏休みと冬休みの2回、皆さんには「美術の鑑賞レポート」を宿題として出していますね。実は、皆さんが提出したレポートを読むことが私の楽しみとなっています。なぜならば、凝り固まった大人の感性（つまり私の感性）を柔らかくしてくれる考察が皆さんのレポートにはあふれているからです。「なるほどね！」「その視点は（私には）なかった！」と感心し、読みながらニタニタしたり大きくうなずいたりしています。これまでのレポートの中からいくつか生徒の感想を抜粋して紹介します。

★ロダンの「考える人」を鑑賞したY君の感想。『わざわざ固い岩の上に座って考えているので難しい悩みなのかな？いや、意外と単純なこと悩んでいるけど言い出せないだけなのかもしれない。』

ロダンの「考える人」は「地獄の門」という恐ろしいタイトルの彫刻の上部についています。このことを知っていれば、かなり苦悩している姿だろうな、と思いがちですが、Y君は柔軟な発想で「意外と単純なこと悩んでる。」と考察しました。Y君は私の「知識」が気づきの邪魔をしているということと、「鑑賞は自由でいいんだよ！」ということに気づかせてくれました。

★草間彌生の「南瓜」を鑑賞したO君の感想。『どんな気持ちで描いたのだろう、ではなく、どんな味わいがあるんだろう、と考えた。私は、とても甘いのではないかと思います』

水玉模様で作品を制作することで有名な草間さん。その模様や、南瓜というモチーフ、強烈な色彩に意識がいきがちですが、O君はなんと！水玉南瓜の味覚を考察しました。私は草間さんが描いた南瓜の味なんて考えたこと

がありませんでした。O君は私に新たな視点を与えてくれました。

★フェルメールの「牛乳を注ぐ女」を鑑賞したTさん。『この作品に深い意味はないように感じたものの、壁の後ろの下の方にキューピットが描かれているのは何でなのでしょう？』

最初、「キューピット？？Tさんの見間違いかな？」と思いました。絵を確認したところ、確かにかなり小さく、らしきものが描かれているのです。壁の下、床と接する所にタイルが貼られており、そのタイルの模様がキューピットに似ているのです。隅々までしっかり見て（味わって）みると観察眼に感服です。さらに、フェルメール作品には他にもタイルが描かれている作品があるのですが、どれもタイルの模様が違う、ということまで分かりました。作品の意図に沿って模様を変えているのでしょうか。これだけでも美術論文が書けそうなすどい指摘（発見）です。

さて、2学期はじめには1年生の鑑賞レポートが提出されます。今年の1年生はどんな感性の持ち主でしょうか。どのような大切なことを私に与えてくれるのでしょうか。とても楽しみに待っています。



どこだか分かりますか？